

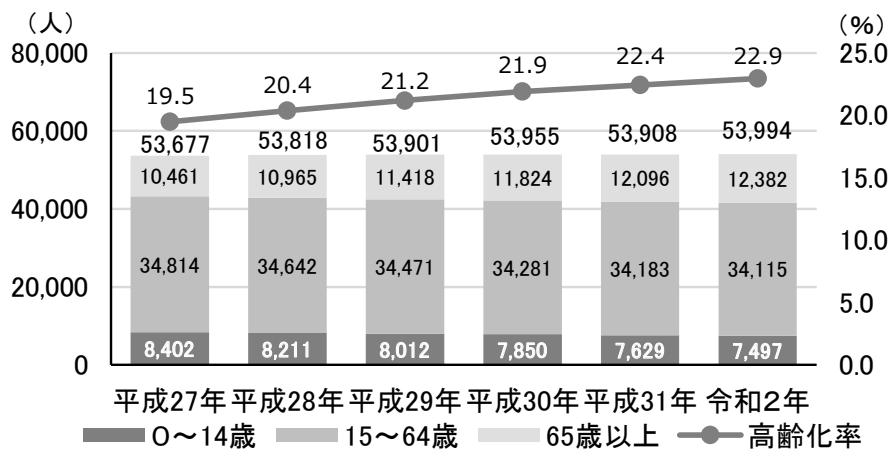
## 第2章 本市の現状

### 1 統計データから見る現状の整理

#### 1) 人口と世帯の状況

##### (1) 総人口の推移

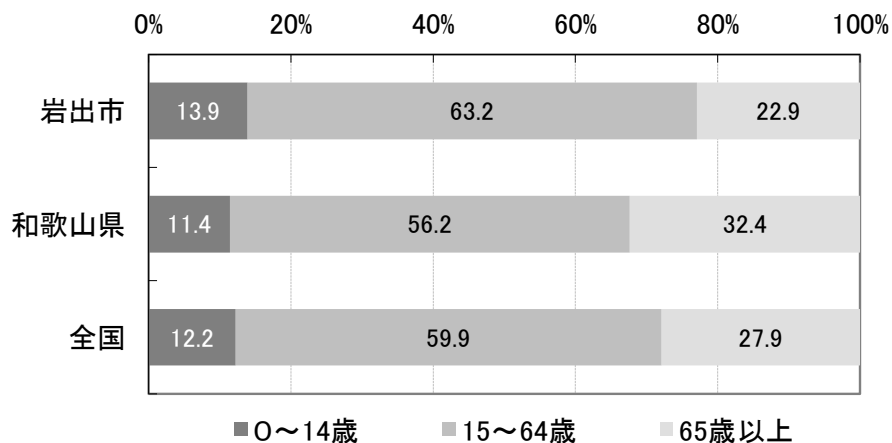
- ▶本市の人口は、増加傾向となっており、令和2年には53,994人となっています。
- ▶「0～14歳」「15～64歳」の人口は減少傾向にあり、「65歳以上」の人口は増加傾向となっています。
- ▶高齢化率は、増加傾向となっており、令和2年には22.9%となっています。



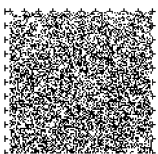
資料：住民基本台帳(各年1月1日現在)

##### (2) 年齢3区分別人口比(令和2年)(和歌山県、全国との比較)

- ▶令和2年の年齢3区分別人口構成比を和歌山県、全国と比較すると、0～14歳人口比と15～64歳人口比は和歌山県や全国を上回っているのに対し、65歳以上人口比は下回っています。

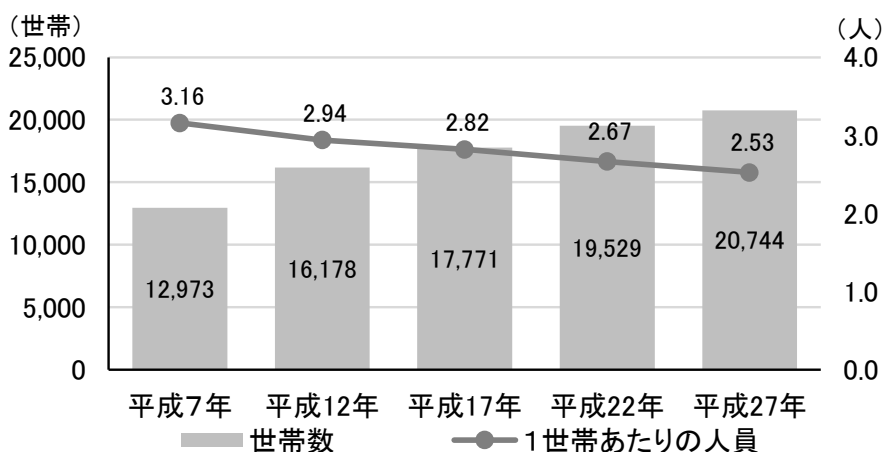


資料：住民基本台帳(令和2年1月1日現在)



### (3) 世帯数と1世帯あたりの人員の推移

▶ 世帯数は増加傾向にあり、平成27年には20,744世帯と、平成7年と比べて7,771世帯増加しています。一方、1世帯あたりの人員については、平成7年の3.16人から、平成27年の2.53人に減少しており、単身世帯や夫婦のみ世帯、ひとり親と子世帯など、世帯人数の少ない世帯が増加していることがうかがえます。

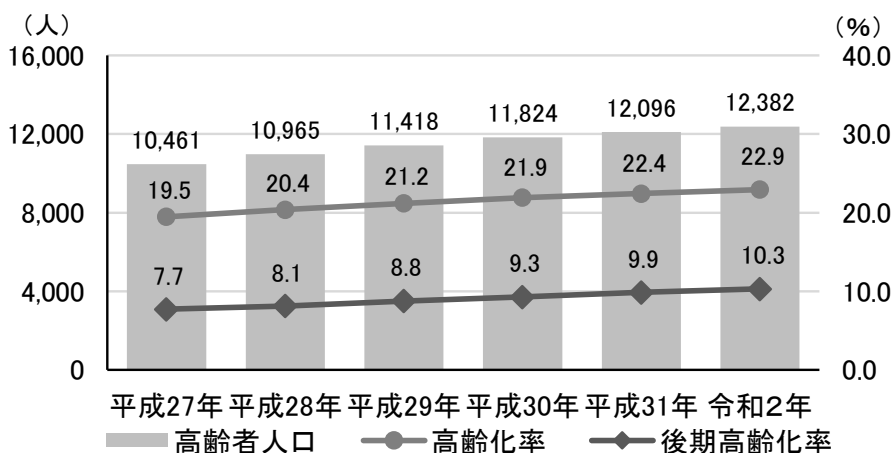


資料: 国勢調査(各年10月1日現在)

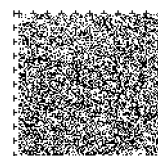
## 2) 高齢者の状況

### (1) 高齢者数と高齢化率の推移

▶ 65歳以上の高齢者数は年々増加しており、令和2年で12,382人となっています。また、総人口に占める65歳以上の人口の割合(高齢化率)と75歳以上の人口の割合(後期高齢化率)はともに増加しており、令和2年では高齢化率が22.9%、後期高齢化率が10.3%となっています。



資料: 住民基本台帳(各年1月1日現在)



## (2) 高齢者のいる世帯の推移

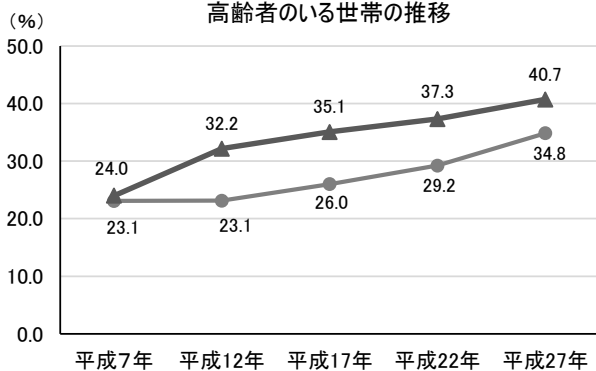
▶ 総世帯に占める高齢者のいる世帯、高齢者のひとり暮らし世帯、高齢者夫婦のみ世帯の割合はそれぞれ増加していますが、和歌山県を下回っている状況です。一方、高齢者夫婦のみ世帯では、平成27年において全国と概ね同じ水準となっています。

高齢者のいる世帯の状況

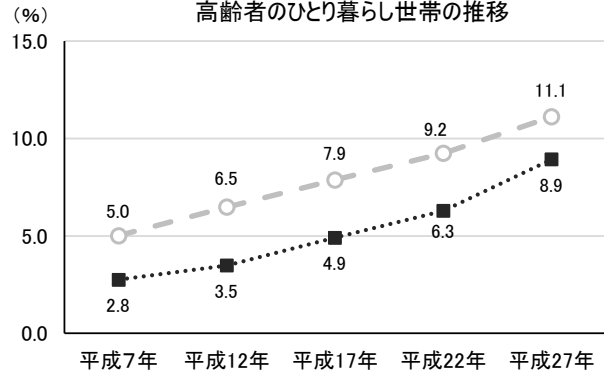
(単位:世帯)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年 (和歌山県)	平成27年 (全国)
総世帯(A)	12,973	16,178	17,771	19,529	20,744	391,465	53,331,797
高齢者のいる世帯(B)	2,993	3,740	4,619	5,709	7,228	193,769	21,713,308
比率B/A	23.1%	23.1%	26.0%	29.2%	34.8%	49.5%	40.7%
高齢者のひとり暮らし世帯(C)	357	564	872	1,229	1,853	58,706	5,927,686
比率C/A	2.8%	3.5%	4.9%	6.3%	8.9%	15.0%	11.1%
高齢者夫婦のみ世帯(D)	578	837	1,248	1,737	2,278	56,714	6,079,126
比率D/A	4.5%	5.2%	7.0%	8.9%	11.0%	14.5%	11.4%

高齢者のいる世帯の推移

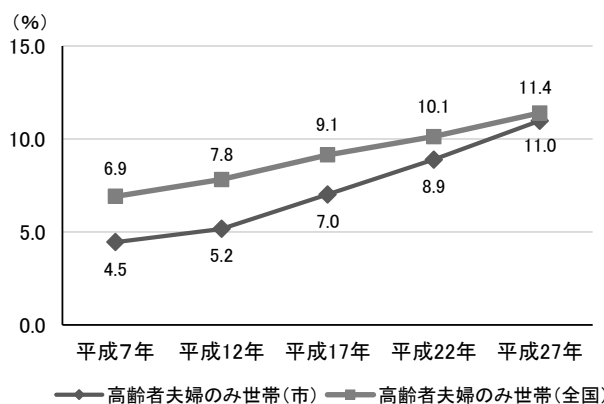


高齢者のひとり暮らし世帯の推移

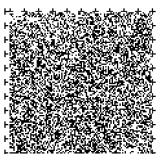


—●— 高齢者のいる世帯(市) —▲— 高齢者のいる世帯(全国) ...■... 高齢者のひとり暮らし世帯(市) -○- 高齢者のひとり暮らし世帯(全国)

高齢者夫婦のみ世帯の推移

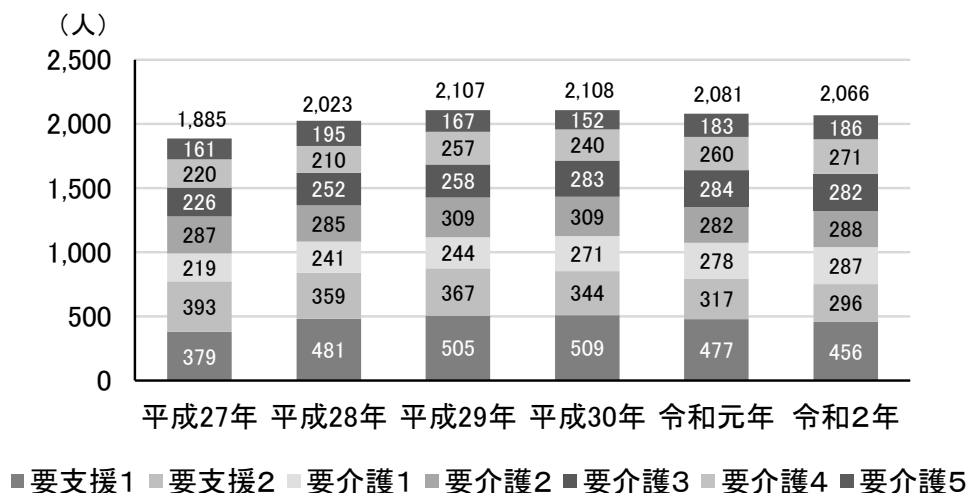


資料:国勢調査(各年10月1日現在)



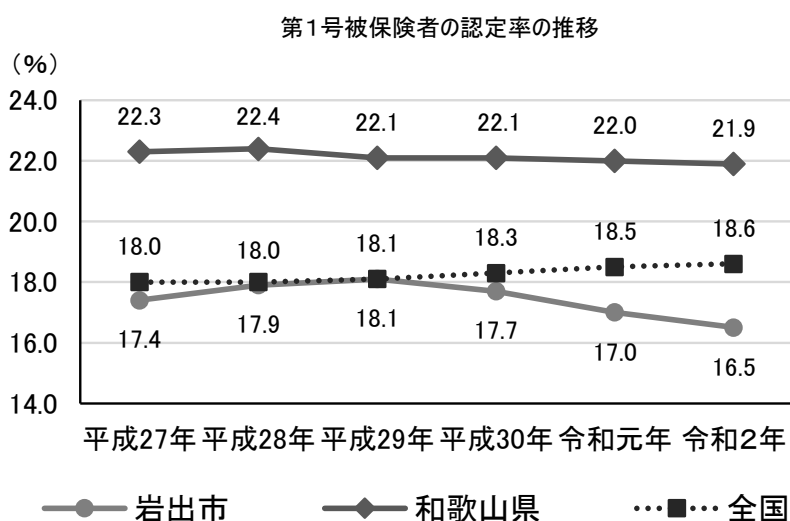
### (3) 要支援・要介護認定者数の推移

▶ 第1号被保険者の要支援・要介護認定者数の推移を見ると、平成 29 年以降、緩やかに増減を繰り返しています。また、要介護別に見ると、各年、軽度者(要支援及び要介護1)が5割程度占めています。

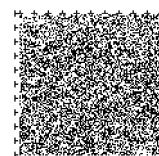


資料:介護保険事業状況報告(各年9月末)

▶ 第1号被保険者の認定率の推移を見ると、平成 29 年以降減少傾向にあり、令和2年で16.5%となっています。和歌山県や全国と比べると、下回って推移しています。



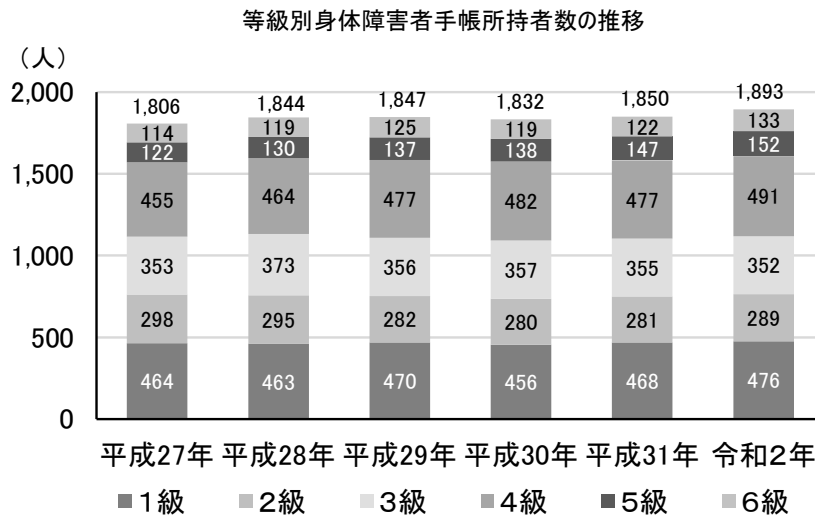
資料:介護保険事業状況報告(各年9月末)



### 3) 障害のある人の状況

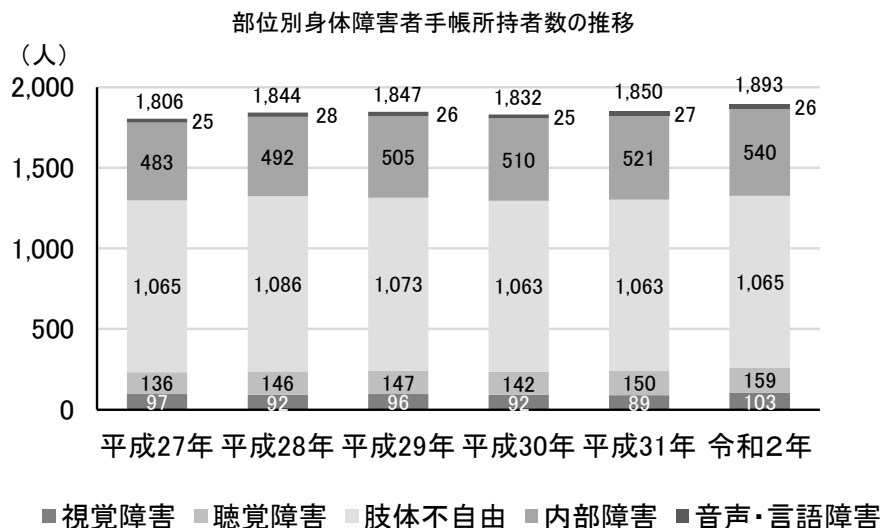
#### (1) 身体障害者手帳所持者数の推移

▶ 身体障害者手帳所持者は、年々増加傾向となっており、令和2年で 1,893 人となっています。等級別に見ると、平成 28 年以降、4級が最も多く、令和2年では 491 人となっています。

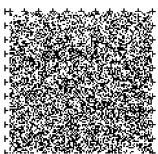


資料：地域福祉課調べ(各年3月31日現在)

▶ 部位別に見ると、各年「肢体不自由」が最も多く、令和2年で 1,065 人となっています。次いで、「内部障害」(540 人)、「聴覚障害」(159 人)となっています。

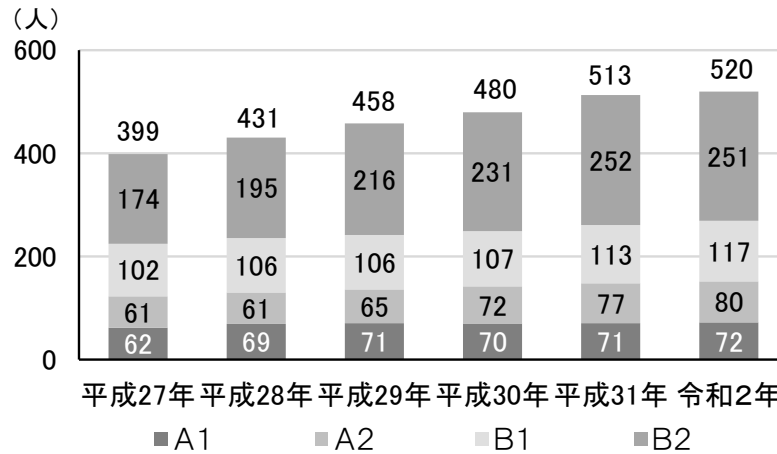


資料：地域福祉課調べ(各年3月31日現在)



## (2) 療育手帳所持者数の推移

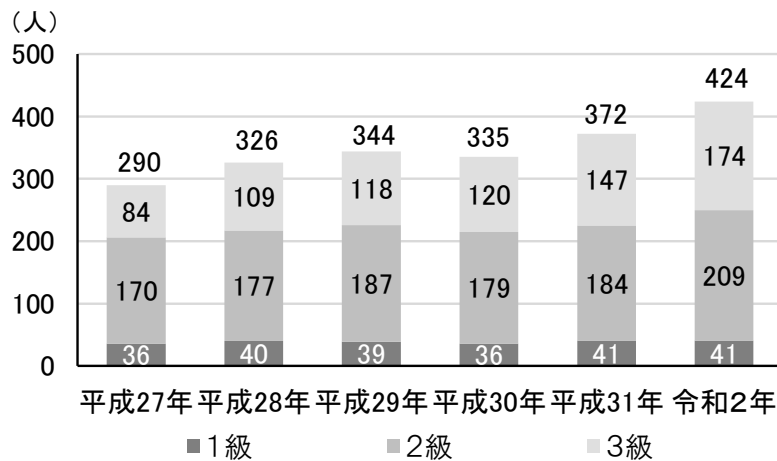
- ▶療育手帳所持者数の推移を見ると、年々増加しており、令和2年で520人となっています。また、判定別に見ると、令和2年で「B2」が251人で最も多く、次いで「B1」(117人)、「A2」(80人)となっています。



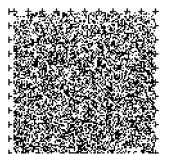
資料：地域福祉課調べ(各年3月31日現在)

## (3) 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

- ▶精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移を見ると、増減を繰り返しながらも増加しており、令和2年で424人となっています。等級別に見ると、各年、2級が最も多く、令和2年で209人となっています。



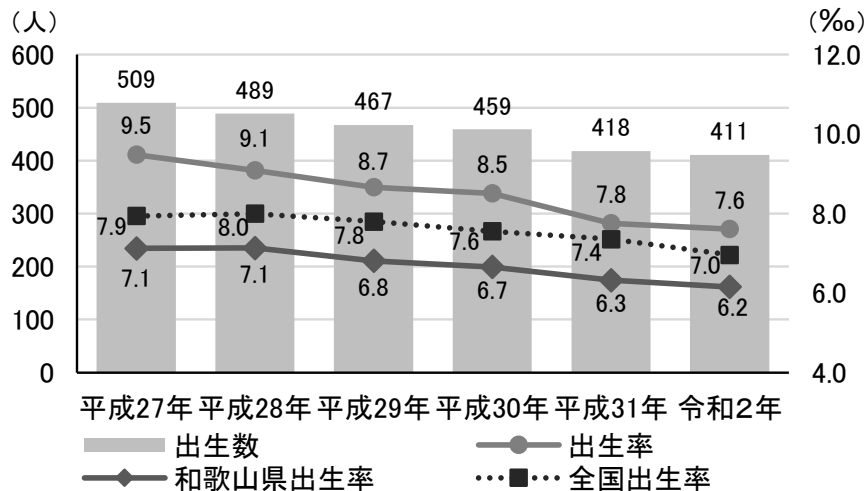
資料：地域福祉課調べ(各年3月31日現在)



## 4) 子どもの状況

### (1) 出生数と出生率の推移

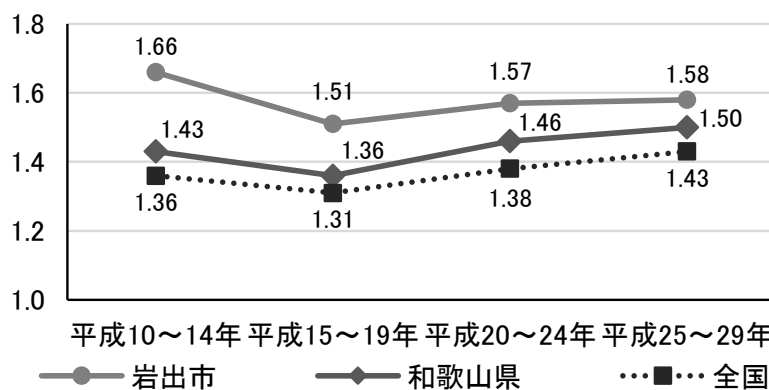
▶ 出生数の推移を見ると、年々減少傾向にあり、令和2年で 411 人となっています。また、出生率(人口 1,000 人あたりの出生数)の推移を見ると、和歌山県や全国を上回りながらも減少傾向にあり、令和2年で 7.6%となっています。



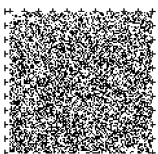
資料:住民基本台帳(各年1月現在)

### (2) 合計特殊出生率の推移

▶ 合計特殊出生率の推移を見ると、平成 25～29 年の合計特殊出生率は、近年で最も低い平成 15～19 年の 1.51 より若干回復し、1.58 となっており、和歌山県や全国を上回っています。

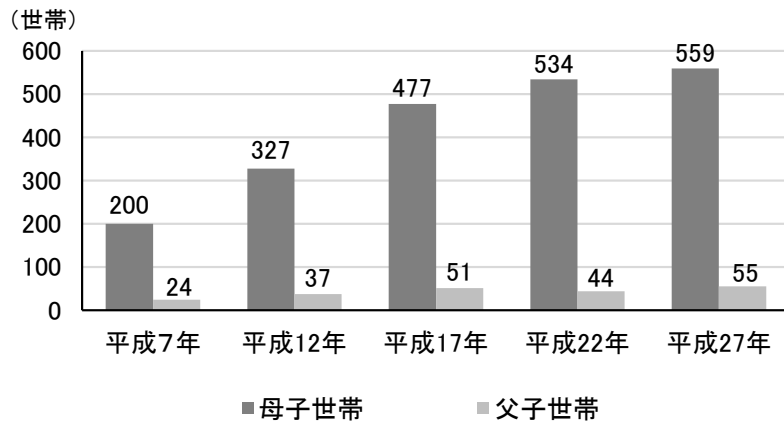


資料:人口動態保健所・市町村別統計



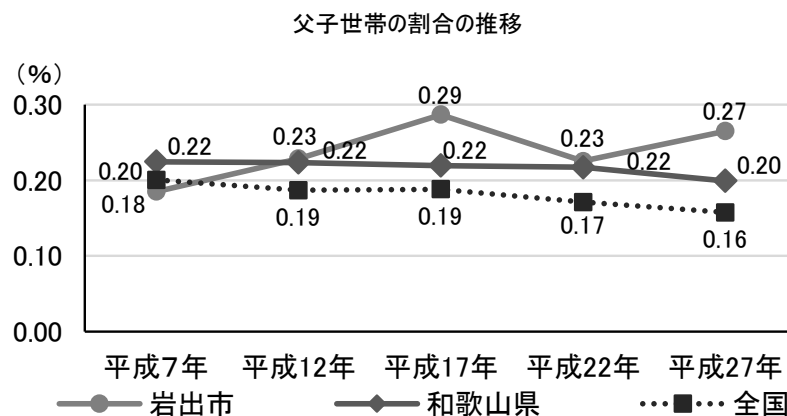
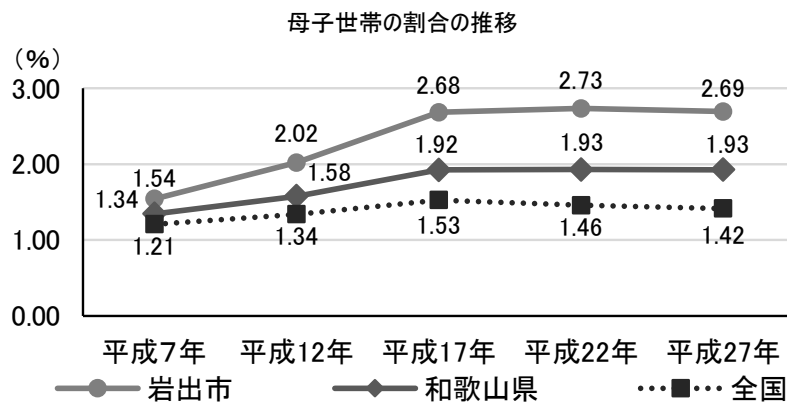
### (3) ひとり親世帯の推移

▶ひとり親世帯の推移を見ると、母子世帯は年々増加しており、平成27年で559世帯となっています。父子世帯は、増減を繰り返しながらも増加しており、平成27年では55世帯となっています。

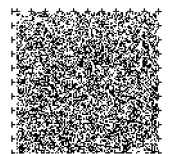


資料：国勢調査（各年10月1日現在）

▶母子世帯及び父子世帯の割合の推移を見ると、母子世帯では増加傾向にあり、各年で和歌山県、全国を上回って推移しています。父子世帯は、平成17年までは増加していましたが、平成22年減少したものの、平成27年に再び増加しています。また、和歌山県、全国と比べると、平成12年以降、和歌山県、全国を上回って推移しています。



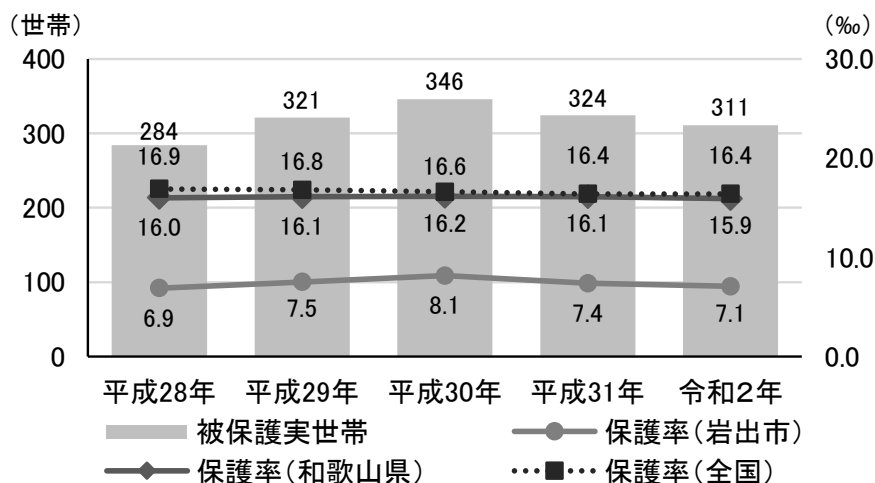
資料：国勢調査（各年10月1日現在）





#### (4) 生活保護世帯の推移

▶生活保護の被保護世帯の推移を見ると、平成30年以降、減少傾向にあり、令和2年で311世帯となっています。また、保護率(人口1,000人あたりの被保護者数)の推移を見ると、平成30年以降、減少傾向にあり、令和2年で7.1%となっています。全国、和歌山県と比べると、各年下回って推移しています。



資料:岩出市 生活支援課調べ(各年3月31日現在)  
和歌山県 福祉保健総務課調べ(各年3月31日現在)  
全国 厚生労働省(被保護者調査)平成28年~令和元年  
(保護率の算出は、「1か月平均の被保護実人員を推計人口(各年10月1日現在)で除した」) ※令和2年は、厚生労働省白書(令和2年版)参照

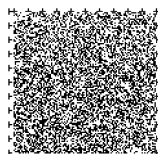
#### (5) 地域福祉の担い手などの状況

▶地域福祉の担い手などの状況を見ると、区・自治会については、団体数が微増傾向にあり、平成27年から令和2年で4団体増加しています。その一方で、加入世帯及び加入率は減少しています。また、全体的に会員数等が減少傾向の中、老人クラブ、地域福祉協議会の団体数は横ばいで推移しています。老人クラブの会員数は増減を繰り返しながら、平成27年と令和2年を比較すると会員数は61人増加しています。

(単位:人・世帯・団体・%)

		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年
民生委員・児童委員	人数	91	91	91	91	90	89
	一人あたり担当世帯数	240	243	246	249	256	262
	一人あたり担当人数	590	590	593	592	598	605
社会福祉協議会ボランティアセンター	個人登録数	61	59	57	49	55	46
	団体登録数	372	325	283	287	269	253
区・自治会	団体数	390	390	390	395	394	394
	加入世帯数	15,879	15,723	15,830	15,680	15,453	15,339
	加入率	73	71	71	69	67	66
老人クラブ	団体数	48	48	48	48	48	48
	会員数	2,010	1,967	1,997	2,021	2,140	2,071
地域福祉協議会	団体数	3	3	3	3	3	3
	会員数	66	60	55	45	45	43

資料:生活支援課・地域福祉課・総務課・市社会福祉協議会  
※区・自治会(団体数・加入世帯数・加入率)は各年3月末現在



## 2 市民意識調査から見る状況

### 1) 目的

「地域福祉」に対する住民の方の考え方や意見などを把握し、計画策定の基礎資料とするために市民意識調査を実施しました。

### 2) 調査概要

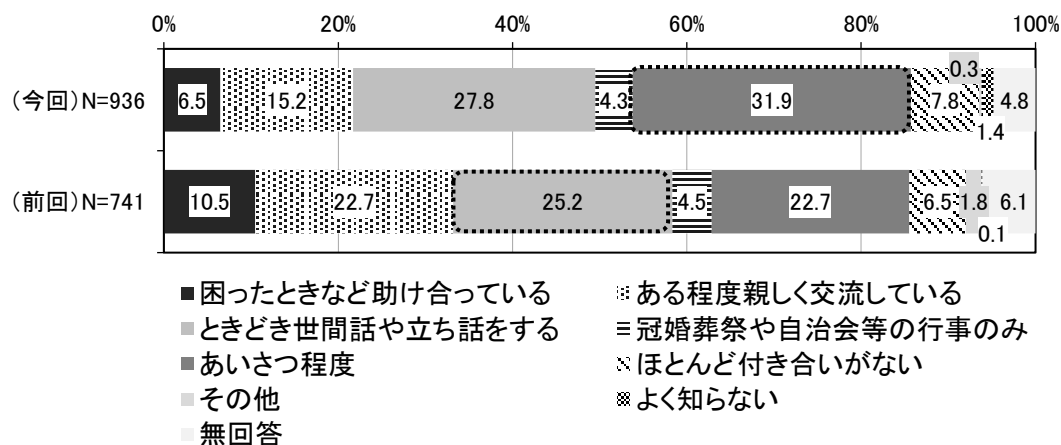
調査対象	岩出市在住の20歳以上の人(令和元年12月1日現在)の中から、2,500名を無作為抽出
調査期間	令和2年1月16日～令和2年1月30日
調査方法	郵送による配布・回収
回収状況	配布数:2,500通、回収数:936通、回収率:37.4%

### 3) 結果の概要

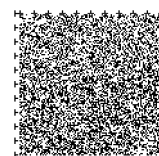
#### (1) 近所との付き合いについて

近所付き合いの程度については、「あいさつ程度」が31.9%で最も多く、次いで「ときどき世間話や立ち話をする」が27.8%となっています。

経年で見ると、前回調査では「ときどき世間話や立ち話をする」の割合が最も高いのに対して、今回調査では「あいさつ程度」となっており、近所付き合いの程度について、希薄化の傾向がうかがえます。



※「前回」とは、第1次計画策定時に実施した市民意識調査(平成27年3月実施) 以下同様



## (2) 地域活動やボランティア活動の参加状況

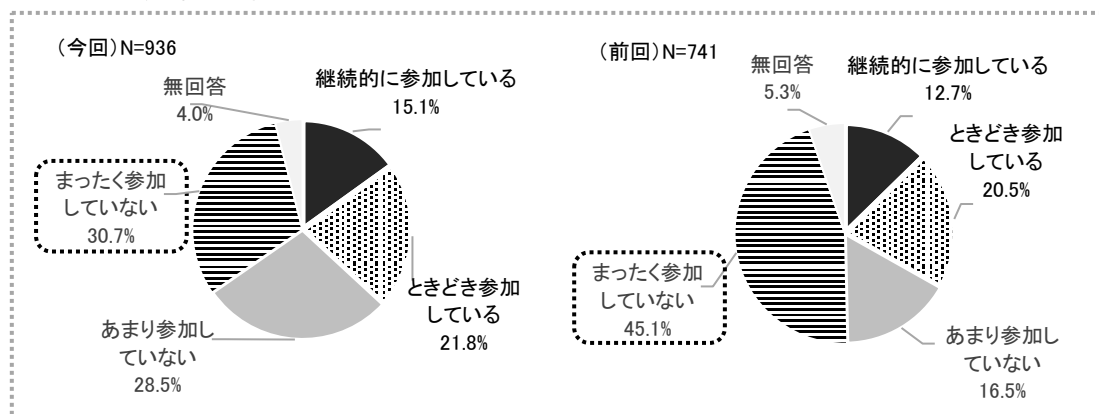
地域活動の参加状況については、「まったく参加していない」が 30.7%で最も多く、次いで「あまり参加していない」が 28.5%となっています。

経年で見ると、前回調査でも「まったく参加していない」が 45.1%と最も高くなっていましたが、今回調査と比較すると 14.4 ポイント減少しているとともに、『参加している(継続的に参加している)+(ときどき参加している)』割合も 3.7 ポイント上昇しています。

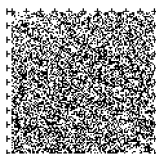
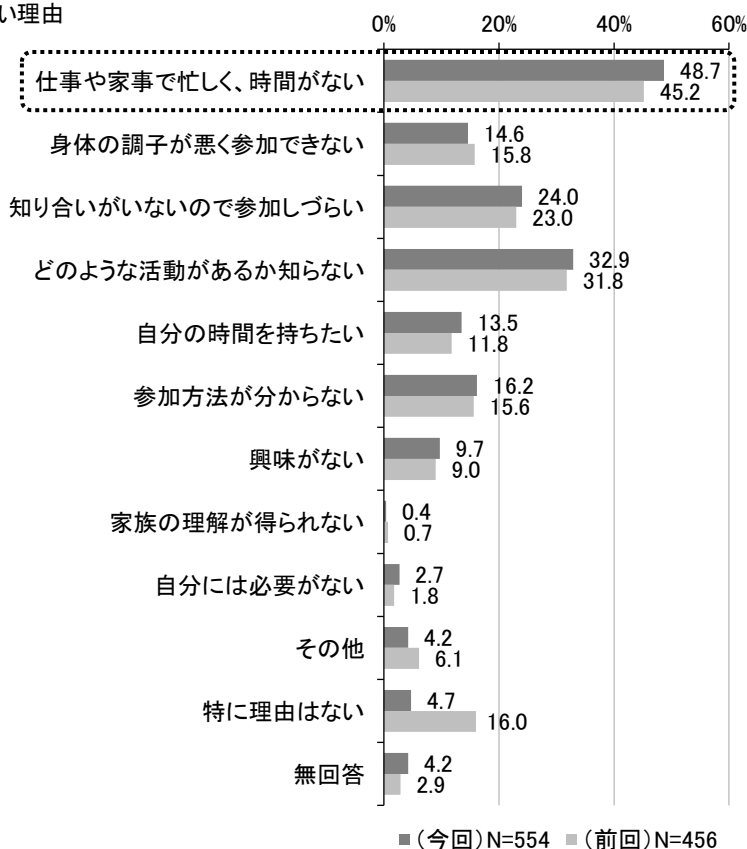
参加していない理由については、「仕事や家事で忙しく、時間がない」が 48.7%で最も高く、次いで「どのような活動があるか知らない」が 32.9%となっています。

経年で見ると、前回調査より今回調査の方が高いのは「仕事や家事で忙しく、時間がない」「知り合いがいないので参加しづらい」「どのような活動があるか知らない」などとなっており、活動内容を情報発信するなど、参加しやすい環境づくりが必要と考えられます。

### ■ ボランティア活動の参加の有無



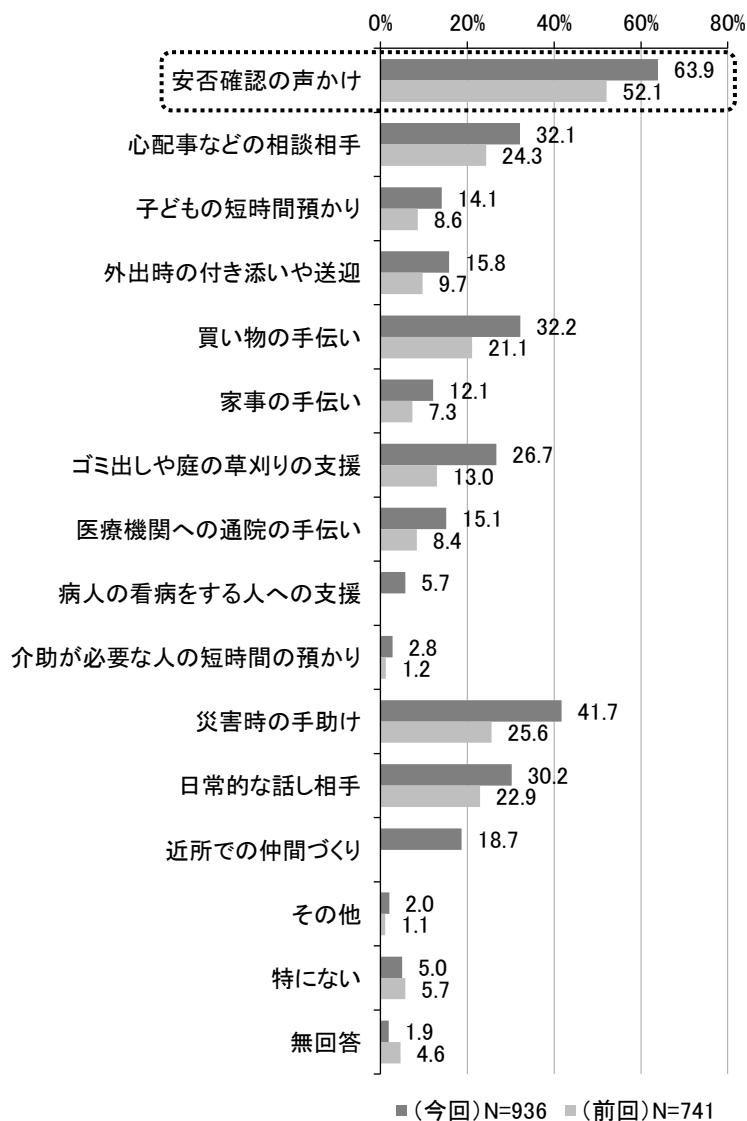
### ■ 参加していない理由



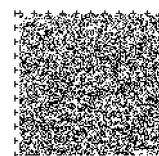
### (3) 困りごとを抱えている人たちから助けを求められたときにできること

困りごとを抱えている人たちにどのようなことができるかについては、「安否確認の声かけ」が63.9%と最も多く、次いで「災害時の手助け」が41.7%となっています。

経年で見ると、全体的に前回調査より今回調査の方が高くなっており、「災害時の手助け」では16.1ポイント、「安否確認の声かけ」では11.8ポイントの上昇が見られるなど、災害時などにおける地域での支え合い、助け合いの重要性が高まっていることがうかがえます。



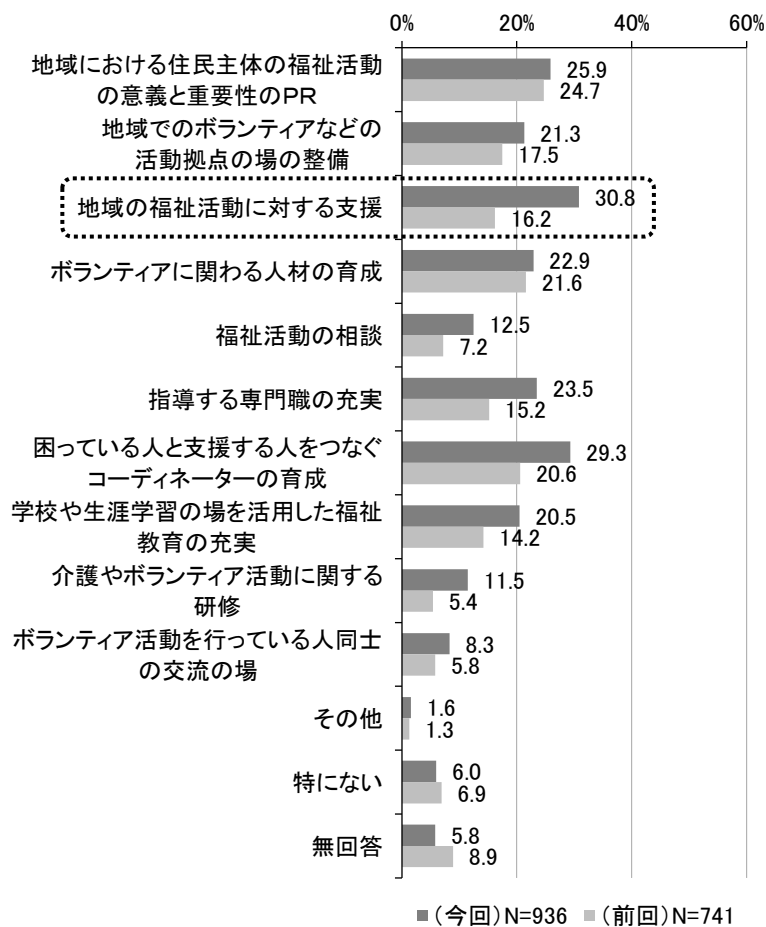
※「病人の看病をする人への支援」「近所での仲間づくり」は今回調査のみの設問です



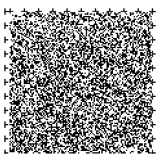
#### (4) 地域における支え合い、助け合いを活発にするために重要なこと

地域における支え合い、助け合いを活発にするために重要なことについては、「地域の福祉活動に対する支援」が 30.8%と最も多く、次いで「困っている人と支援する人をつなぐコーディネーターの育成」が 29.3%となっています。

経年で見ると、全体的に前回調査より今回調査の方が高くなっており、「地域の福祉活動に対する支援」では 14.6 ポイント、「困っている人と支援する人をつなぐコーディネーターの育成」では 8.7 ポイントの上昇が見られるなど、地域の福祉活動に対する支援、人材育成の重要性が高まっています。



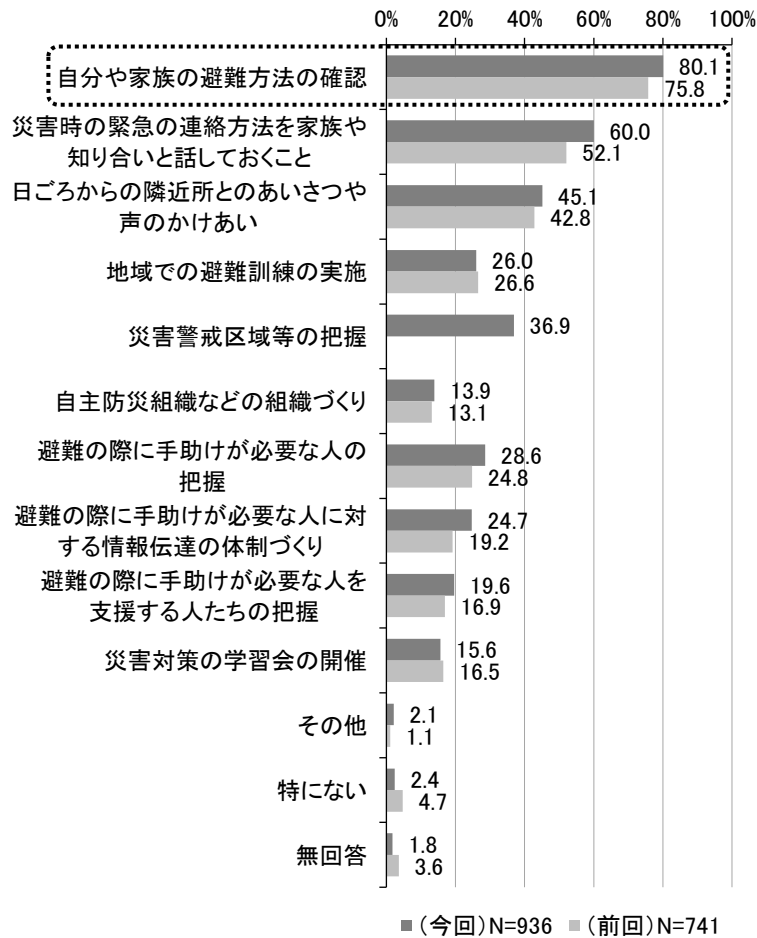
※今回調査の「地域の福祉活動に対する支援」は前回調査では「地域の福祉活動への資金的援助」となっています



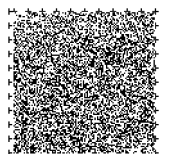
## (5) 災害発生時の備えとして重要なこと

災害発生時の備えとして重要なことについては、「自分や家族の避難方法の確認」が 80.1%で最も多く、次いで「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合いと話しておくこと」が 60.0%となっています。

経年で見ると、前回調査より今回調査の方が高いのは「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合いと話しておくこと」「避難の際に手助けが必要な人に対する情報伝達の体制づくり」などとなっており、災害時における自助・互助の意識が高まっていることがうかがえます。



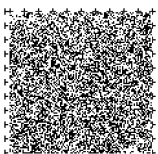
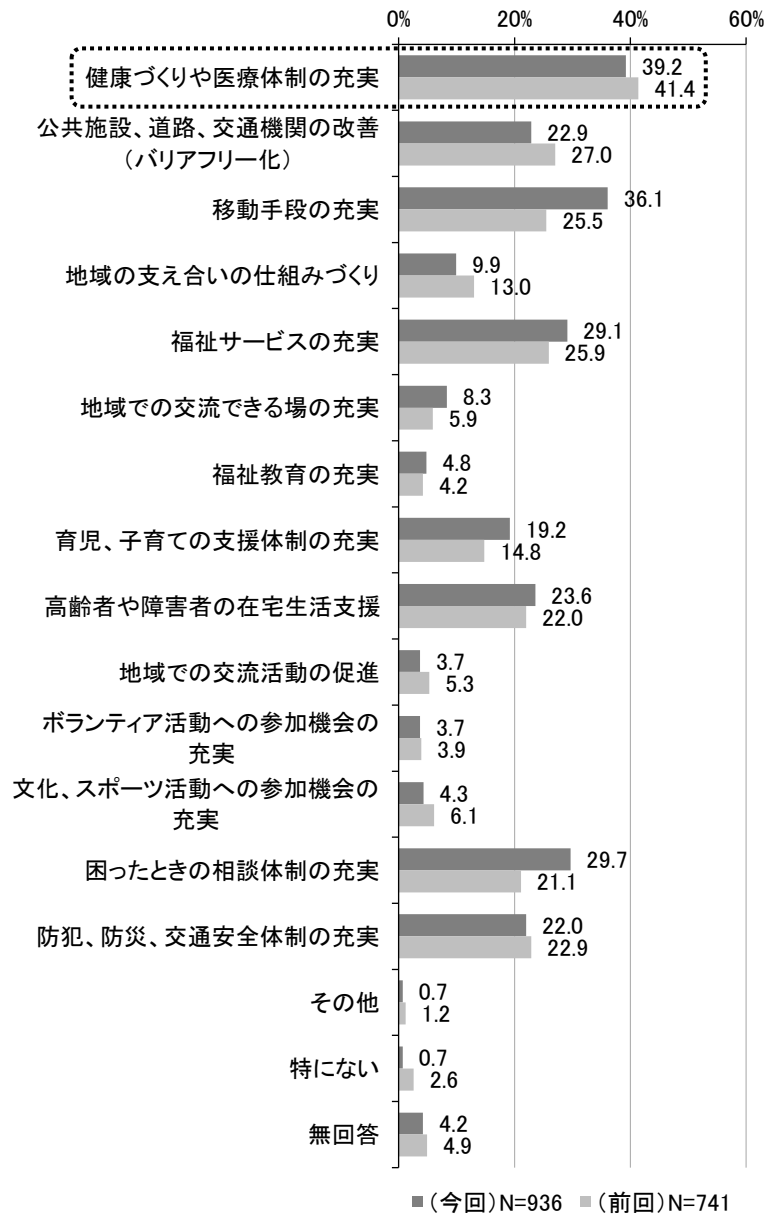
※「災害警戒区域等の把握」は今回調査のみの設問です



## (6) 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切に思う福祉のあり方

福祉のあり方については、「健康づくりや医療体制の充実」が 39.2%で最も多く、次いで「移動手段の充実」が 36.1%となっています。

経年で見ると、前回調査より今回調査の方が高いのは「移動手段の充実」「困ったときの相談体制の充実」などとなっています。



### 3 団体等への調査から見る状況

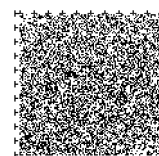
#### 1) 目的

本計画を策定する際の基礎資料とするため、地域福祉の担い手である地域団体・組織を対象に、地域における福祉・生活課題等について、書面によるヒアリング調査を実施しました。

#### 2) 調査概要

調査対象	岩出市内の地域団体及び組織、福祉団体、NPO法人、ボランティア団体等
調査期間	令和2年9月3日～令和2年9月17日
調査方法	郵送及びメール等によるヒアリング調査
回収状況	配布数:17通 回収数:16通 回収率:94.1%
回答団体	岩出市民生委員児童委員協議会 岩出地区地域福祉協議会 山崎地区地域福祉協議会 上岩出地区地域福祉協議会 根来地域福祉委員会 岩出市障害児者父母の会 岩出市身体障害者連盟 岩出市老人クラブ連合会 NPO法人fun-fun いわで・きのかわファミリー・サポート・センター「そらまめサポート」 社会福祉法人皆楽園 社会福祉法人和歌山つくし会 社会福祉法人しらゆり福祉会 社会福祉法人きのかわ福祉会 憩いサロン くれーどる ぽこ

※順不同 敬称略





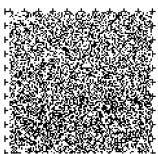
### 3) 結果の概要

(1) 団体が活動を進めるうえで、行政・社会福祉協議会・貴団体のそれぞれの役割について

主な内容	
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域で援助を必要とする方や生活状況を適切に把握していくため、連携及び情報提供</li> <li>○地域における新たな支え合いづくりを進めるため、設計、コーディネート、各団体、事業者、推進者の支援、援助</li> <li>○交流活動やサロン等の情報の周知</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域と行政とのつなぎ役、行政サービスを受けるまでに至らない方の支援の主軸</li> <li>○諸活動への補助、協力、指導</li> <li>○制度外の課題、市民目線での問題を提起</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民と行政とのつなぎ役として、それぞれの地域において、住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行う</li> <li>○地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育てなどの相談・支援等を行う</li> <li>○メンバーや参加者を増やすための声かけと、メンバーの意識向上のための勉強会への参加</li> <li>○地域活動に参加したい人が参加しやすい仕組みやきっかけづくり</li> <li>○地域の居場所(カフェ、サロン他)を作る事</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

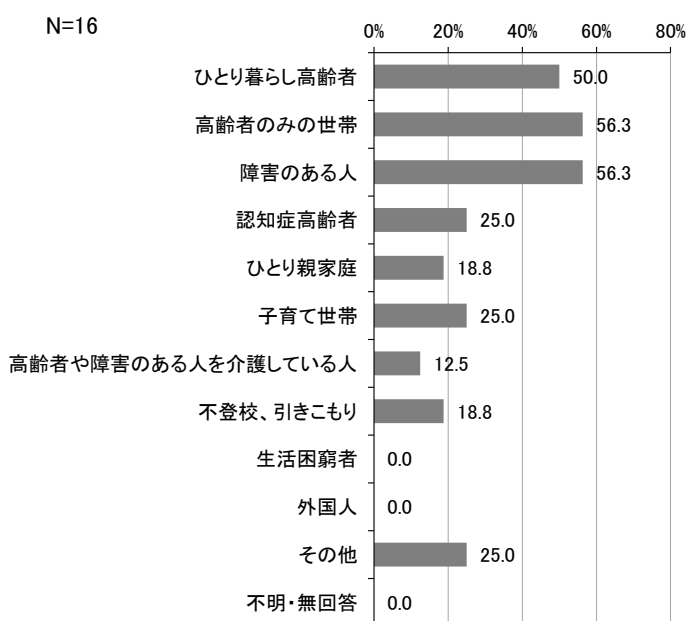
(2) 福祉全般について

主な自由回答	
活動体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○岩出市も障害のある人に関するサークルがもっと増えたらいいと思う</li> <li>○一事業者だけで、完結できない福祉課題も多く、事業者が連携して、岩出市の福祉を支える仕組みをつくることも必要だと思う</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
人材育成、確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○横のつながりが少ないように思う</li> <li>○事業者として今一番の課題は福祉の担い手不足</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昔と今では子育ての仕方も変わっている。祖父母世代にも理解でき、参加できる場があったらいいと思う</li> <li>○子ども医療費助成制度の対象年齢を上げてほしい</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>



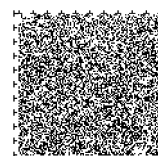
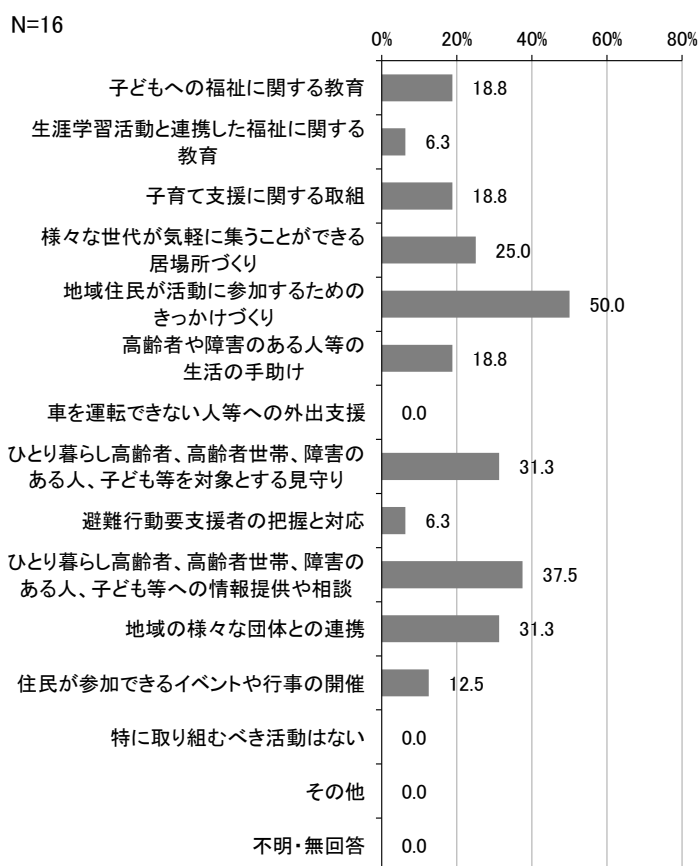
### (3) これから特に支援が必要だと思う人について

支援が必要だと思う対象者について見ると、「高齢者のみの世帯」「障害のある人」が同率で 56.3%と最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者」が 50.0%となっています。



### (4) 貴団体が今後取り組む活動としてできることは何かありますか

今後取り組む活動としてできることは何かについて見ると、「地域住民が活動に参加するためのきっかけづくり」が 50.0%と最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障害のある人、子ども等への情報提供や相談」が 37.5%、「ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障害のある人、子ども等を対象とする見守り」「地域の様々な団体との連携」が同率で 31.3%となっています。



## 4 地域のメッセージから見る状況

---

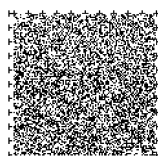
### 1) 目的

岩出市の地域福祉の現状(いいところや気になるところ)や課題、課題の解決に関するアイデアなどの整理を行うため、第2次岩出市地域福祉計画策定に係るメッセージシート(「いわでの ふだんのくらしの しあわせ メッセージ」)を作成し、市役所をはじめ、総合保健福祉センターや各地区公民館、学校等を通じて、多くの方からメッセージをいただきました。

### 2) 実施概要

調査対象	岩出市民
調査期間	令和2年9月1日～令和2年9月30日
調査方法	各小学校・中学校への配布、各施設への設置、市ホームページへの掲載
回答状況	岩出小学校(50部) 山崎小学校(110部) 山崎北小学校(108部) 根来小学校(66部) 上岩出小学校(71部) 中央小学校(76部) 岩出中学校(209部) 岩出第二中学校(216部) 市内各施設等(123部) 計1,029部の回答をいただきました

※順不同 敬称略



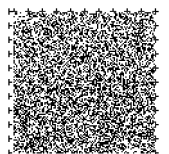
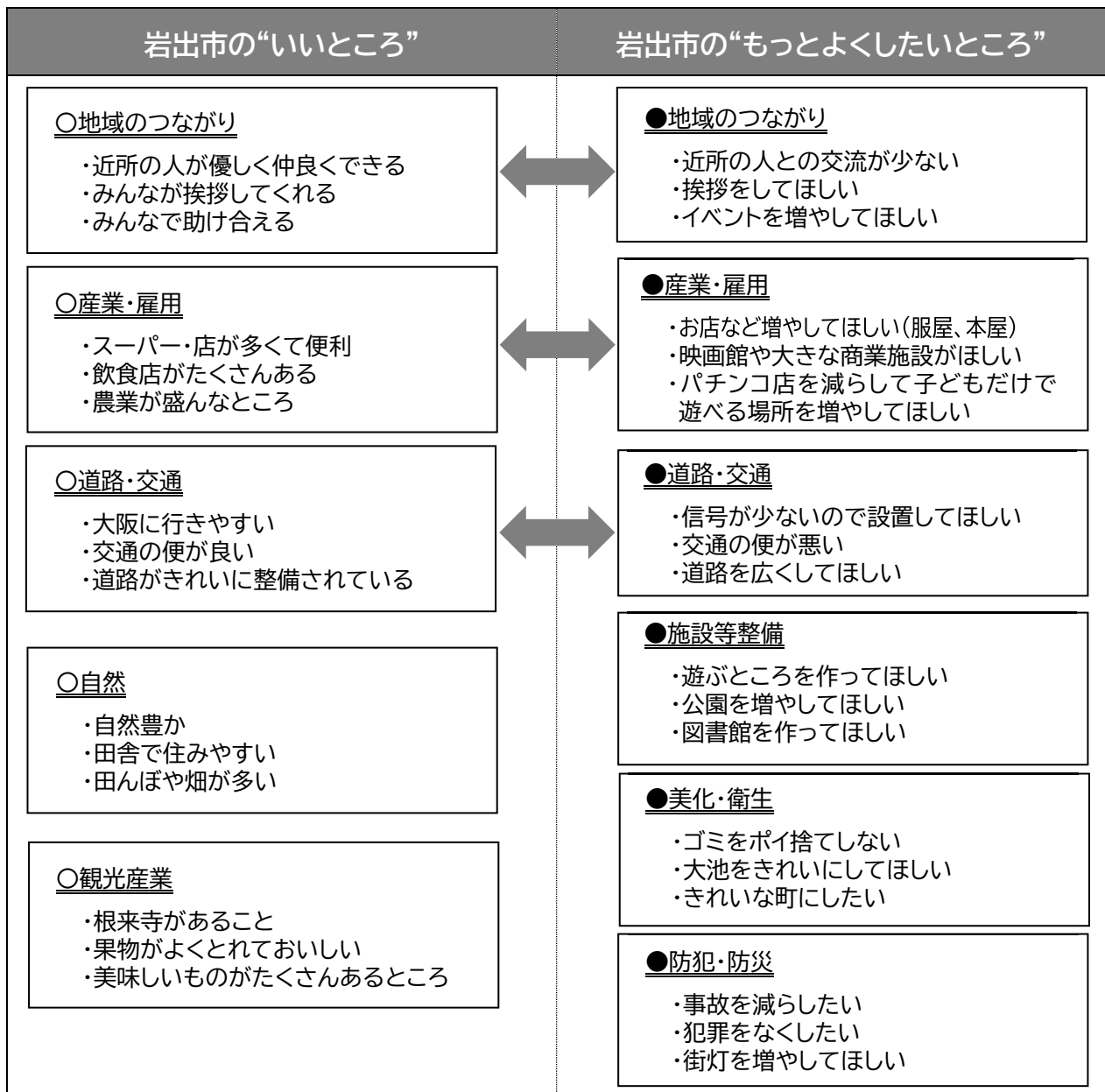
### 3) メッセージシートによる地域のいいところや課題と解決策・アイデア等

メッセージシートの結果を踏まえて、多くのメッセージであがっていた“いいところ”、“もっとよくしたいところ”、“アイデア”を中心に整理しました。

#### 小学校

#### (1) 岩出市の“いいところ”、“もっとよくしたいところ”（※主な内容）

小学生からのメッセージを整理すると、「地域のつながり」「産業・雇用」「道路・交通」の項目で相反する意見が見られました。



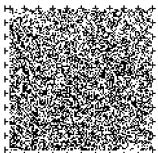
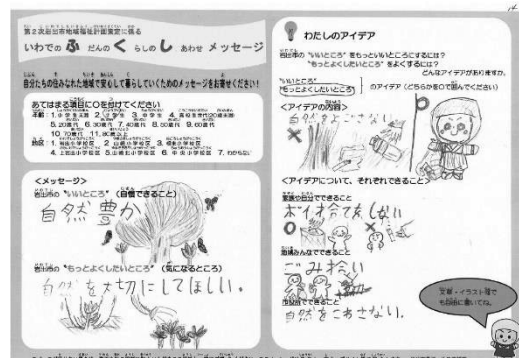
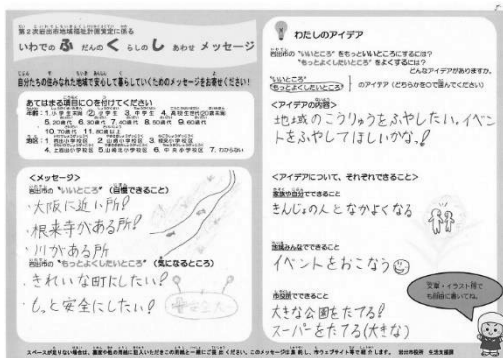
## (2) アイデア (※主な内容)

アイデアの内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>○イベントなど地域の人と人との交流を多くする</li> <li>○ゴミをポイ捨てしないように看板やポスターを作ったり、呼びかけをしたりする</li> <li>○ショッピングモールを建てる</li> <li>○大きい公園を作る</li> </ul>

家族や自分でできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○近所の人に挨拶をして声かける</li> <li>○近所の人と仲良くなる</li> <li>○ゴミが落ちていたら拾って捨てる、ポイ捨てをしない</li> <li>○お金を寄付したりする</li> <li>○交通安全に注意する</li> </ul>

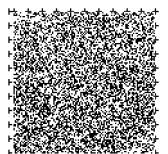
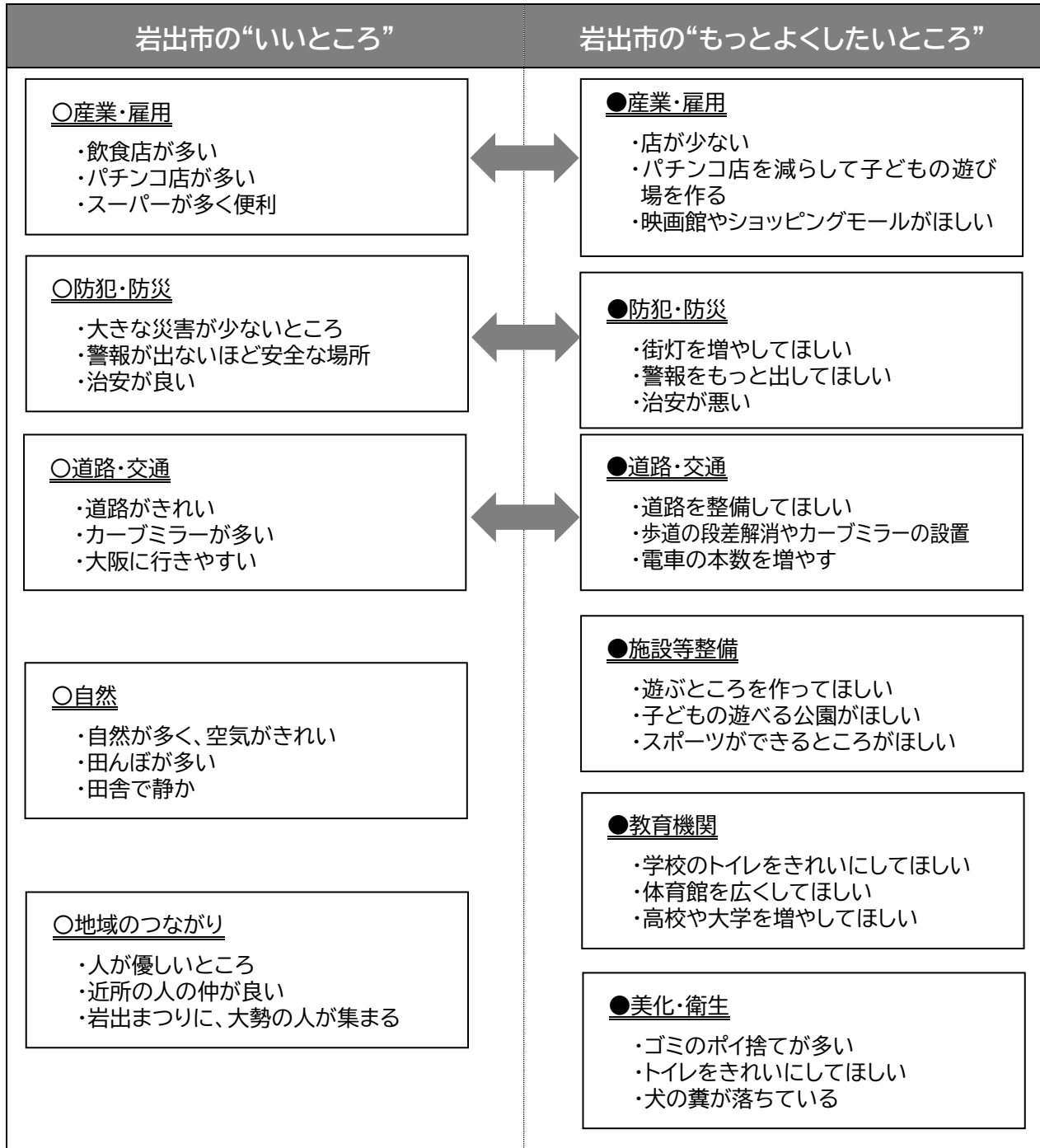
地域みんなのできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○知っている人・知らない人にかかわらず、協力する</li> <li>○ゴミ拾い活動的なイベントを開催する</li> <li>○まちづくりの募金をする</li> <li>○公園や町をみんなできれいにする</li> </ul>

市役所でできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○イベントの情報などをポスターやインターネットなどで知らせる</li> <li>○ゴミを捨てないようにポスターとかを貼ったり、みんなに呼びかける</li> <li>○公園や道路の整備、バスの本数を増やすことを検討してもらう</li> <li>○いろんな人と交流できるところを作ればいいと思う</li> </ul>



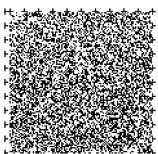
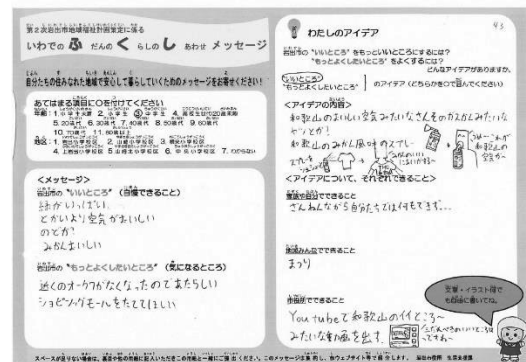
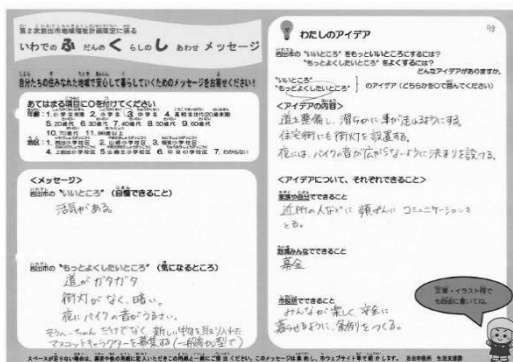
(1) 岩出市の“いいところ”、“もっとよくしたいところ”（※主な内容）

中学生からのメッセージを整理すると、「産業・雇用」「防犯・防災」「道路・交通」の項目で相反する意見が見られました。



## (2) アイデア (※主な内容)

アイデアの内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>○映画館や大型ショッピングモールを建てる</li> <li>○小さな子から大人まで楽しめる施設をつくる</li> <li>○ポイ捨てが無いようゴミ箱を各所に設置する。また、地域みんなで掃除する</li> <li>○地域交流できるイベントを開催する</li> </ul>
家族や自分でできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○募金をする</li> <li>○施設を大切に使うことと、ゴミ拾い</li> <li>○ゴミのポイ捨てをしないで家まできちんと持って帰る</li> <li>○イベントやボランティアに参加</li> </ul>
地域みんなのできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりが意識してゴミなどを捨てないようにすればいい</li> <li>○施設をきれいに使用したり、草刈り、ゴミ拾いをする</li> <li>○ポイ捨て禁止のポスターを作成したり、ポイ捨てをしている人を見かけたら注意する</li> <li>○イベントを増やし、積極的に参加する</li> </ul>
市役所でできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○公園の設置など、遊べる所を作る</li> <li>○ポイ捨て禁止の看板設置、ゴミ捨て禁止ポスター作成や、美化イベントの開催</li> <li>○祭りなどのイベントの開催や、イベントのチラシなど配布して宣伝してほしい</li> <li>○みんなが楽しく安全に暮らせるように条例をつくる</li> </ul>

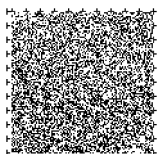


## 市内各施設（総合保健福祉センター、市内公民館、児童館）

### (1) 岩出市の“いいところ”、“もっとよくなりたいところ”（※主な内容）

各施設に寄せられたメッセージを整理すると、「産業・雇用」「道路・交通」「施設等整備」の項目で相反する意見が見られました。

岩出市の“いいところ”	岩出市の“もっとよくなりたいところ”
<p><u>○産業・雇用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食店が多くて生活しやすい</li> <li>・スーパーが多い</li> <li>・生活に必要な店が多く、住みやすい</li> </ul>	<p><u>●産業・雇用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業複合施設(モール)がほしい</li> <li>・パチンコ店が多すぎる</li> <li>・専門店の活性化</li> </ul>
<p><u>○道路・交通</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪に近く、関空にも近い</li> <li>・交通のアクセスがいい</li> <li>・道路が整備され、生活しやすい環境</li> </ul>	<p><u>●道路・交通</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車がないと移動が不便</li> <li>・交通が不便(駅やバスが少ない)</li> <li>・道路の狭い道が多く、見通しも悪い</li> </ul>
<p><u>○施設等整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子が思いっきりはしゃいで遊べる公園(さぎのせ公園)があていい</li> <li>・スポーツできるところがある</li> </ul>	<p><u>●施設等整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子が遊べる公園などをつくる</li> <li>・スポーツ施設の拡充</li> <li>・駅周辺の活性化。駅周辺を拡げてほしい</li> </ul>
<p><u>○自然</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が豊かなところ</li> <li>・緑があり、空気・水がきれい</li> <li>・市街地と自然や畑のバランスが良い</li> </ul>	<p><u>●地域</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民同士のつながりが薄い</li> <li>・世代間交流が少ない</li> <li>・皆が参加できるようなイベントをしてほしい</li> </ul>
<p><u>○住環境</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近くに学校、病院、店などがあり便利で生活しやすいところ</li> <li>・住みやすく、物価が安い</li> </ul>	<p><u>●行政</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが岩出市に関心を持ってもらいたい</li> <li>・文化交流、芸術にも力を入れてほしい</li> </ul>
	<p><u>●美化・衛生</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイ捨てをやめる</li> <li>・定期的に各地区で捨ててあるゴミ(拾い)掃除を行う</li> </ul>





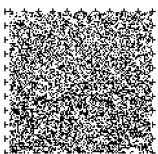
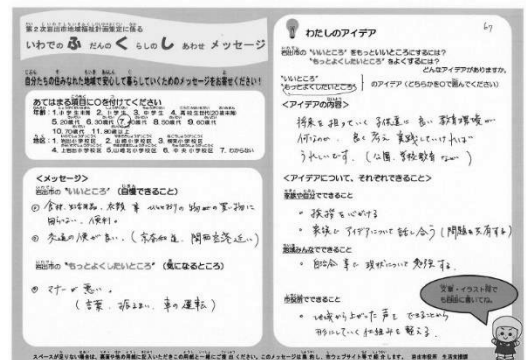
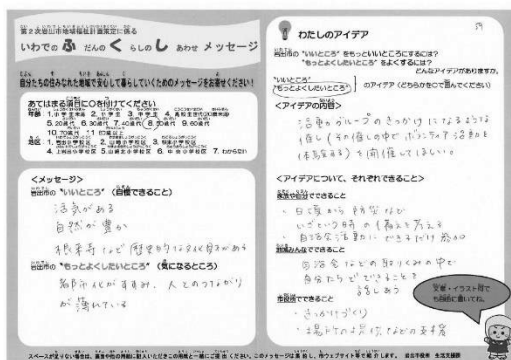
## (2) アイデア (※主な内容)

アイデアの内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>○公民館、プール、図書館の設備の充実</li> <li>○近隣住民たちとの交流をしっかりと進める。広場や公園及び公民館などの活用、楽しい工夫をしたイベントの企画、ボランティア活動の担い手育成のための勉強会など</li> <li>○地域の活性化のため、老若男女が楽しめ、利用できる映画館などを含む商業施設を誘致する</li> <li>○観光都市と言いながら、ゴミ対策が出来ていない。「町をきれいにしましょう」条例を作る</li> </ul>

家族や自分でできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアに参加し、地域をよくしたい</li> <li>○日頃から自治会の活動に参加する。自分から積極的に近隣の人に挨拶し、つながりを強くする</li> <li>○ご近所との付き合いを密にし、お互い様の精神で助け合う</li> <li>○ポイ捨てをやめたり、家の周り等、気付いたらゴミを拾う</li> </ul>

地域みんなのできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地区行事に参加し、必要であれば回覧板でお知らせをする</li> <li>○困っている人がいれば助け合うことができる自治会を築く</li> <li>○イベントを企画し積極的に参加する。リーダーや協力者が必要。はじめは楽しい企画から始める</li> <li>○2～3か月に一度くらい、各団体が清掃活動をする</li> </ul>

市役所でできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民が喜ぶ企画を作る。イベント、居場所作りの協力、講習会など</li> <li>○地区活動を広報PRする</li> <li>○自治会に呼びかけ、見守りしてもらえる方を増やして欲しい</li> <li>○ゴミを拾うことを呼びかけ、職員も率先して行うことが大事</li> </ul>



## 5 本市を取り巻く主な課題

---

### 1) 一人ひとりがつながることができる環境づくり

本市は、転入者の増加に伴い人口が増加傾向にある中、小規模な区・自治会が新設され、46 大字区に、平成 27 年3月末で 390 の区・自治会がありました。令和2年3月末時点では 394 に増加しています。しかし、加入世帯及び加入率は減少傾向で推移しています。また、メッセージシートにおいて、「岩出市の“いいところ”」「岩出市の“もっとよくしたいところ”」として、「地域のつながり」がどちらとも多くあがっており、地域福祉を推進するうえで、個人をはじめ近所における普段からのつながりが重要と捉えていることがうかがえます。

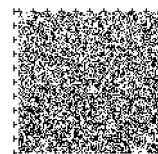
今後も地域福祉を取り巻く課題等が複雑化・多様化することが考えられる中、多くの住民同士が気軽につながることができるよう、多様な交流の機会・活動の場づくりなど、一人ひとりがつながることができる環境づくりに取り組む必要があります。

### 2) 住民同士が「支え合い、助け合う」関係づくり

急速な少子高齢化の進行により、地域福祉の担い手の高齢化、新たな担い手不足が課題となっています。また、地域での関係の希薄化に伴い、地域において支え合い、助け合う関係が重要となっています。

市民意識調査において、地域活動の参加状況については、『参加していない(「まったく参加していない」)(30.7%) + 「あまり参加していない」(28.5%)』が 59.2%と高くなっています。また、「地域における支え合い、助け合いを活発にするために重要なことについては、「地域の福祉活動に対する支援」が 30.8%と最も多く、次いで「困っている人と支援する人をつなぐコーディネーターの育成」が 29.3%となっています。

今後も地域活動への参加・参画機会と各種団体等への活動支援を行うとともに、住民同士が普段から地域で声かけや見守りに取り組めるよう、住民同士が支え合い、助け合う関係づくりに取り組む必要があります。



### 3) 安全で安心して生活できるまちづくり

住民が住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けるためには、様々な困りごとを抱えた人が、身近なところで、何でも気軽に相談できるとともに、相談を受けた後、必要な支援やサービスへとつなげることが大事です。また、近年は地震や大雨、台風など、予期せぬ自然災害が頻発し、地域の安全をどう確保していくかなど、地域福祉を考えるうえで災害に備える視点も重要となっています。

市民意識調査において、災害発生時の備えとして重要なことについては、「自分や家族の避難方法の確認」が80.1%で最も多く、次いで「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合いと話しておくこと」が60.0%となっており、災害時における自助・互助の意識が高いことがうかがえます。

今後もきめ細やかな相談支援や福祉サービスなどの情報提供のほか、生活困窮者に対する支援の充実、災害時における地域での助け合いや支え合いの仕組みづくりなど、普段から誰もが地域において安全で安心して暮らすことができる環境づくりに取り組む必要があります。

### 4) 一人ひとりを認め合うまちづくり

国では「ニッポン一億総活躍プラン」が推進され、女性も男性も、お年寄りも若者も、障害や難病のある方などあらゆる人が家庭で、職場で、地域で、あらゆる場で活躍できる社会の実現をめざしています。

本市においても、性別・年齢・国籍等に関わらず、一人ひとりがお互いの人権を尊重し合い、判断能力が十分でない人等の権利が守られるなど、誰もが自分らしく、いきいきと暮らすことができるまちの実現をめざし、一人ひとりを認め合うことができる関係づくりに取り組む必要があります。

